

## レイクセブ町と協働の生態系保護事業 2 件 — 村長など行政の指導力にも期待 —

ダグマ山系南東部にあるレイクセブ町の生態系保護政策に対して、理念を共有する PFP とともに協働を開始して 2 年になります。

最初の事業地域、セブ湖に浮かぶ島ティバウについては、前号でも報告のように、苗木を植えるだけでなく代替収入源ティラピア養殖支援も実施しました。2 年目事業が終わる 3 月までには、2 回目のティラピア出荷による各世帯 1 万ペソ (約 2.4 万円) の収入が期待できそうです。

昨年 7 月からは標高 1200~1500m のタブロで、アグロフォレストリー事業を始めました。このタブロは、ティナラク織が盛んで、熟練織手ヘルダさんの家を 2 度ほど訪ねたことがあり、今回は、最終日の 12 月 1 日にこのタブロを再訪しました。車を降りると見覚えのある顔が迎えてくれました。アンさんです。「村長に再選された！ 3 期目だからこれが最後の任期！」と、男性のような風貌、大きな声は以前と同じです。

ラワン、ブラクール、ブハガン・・・これまでアグロフォレストリー事業を実施したダグマ山系の村々は、いずれも辺境の最貧困地域で、事業の核となる果樹及びゴムの木からの収入への期待が事業参加の強い動機となっていました。これに対して、タブロはレイクセブ中心部まで車で 20 分と交通条件もよく、少し水田もあります。ティナラク織を含めて多様な収入源がある地区です。事業がもたらす収入向上への期待度は最貧困地域ほど強くないかもしれませんが、生態系保護モデル事業と位置付ける今回の 30 世帯 30ha の事業の重要性を、力強く説く住民集会でのアン村長を見て安心しました。ここでは行政の強いリーダーシップに頼れそうです。



アン  
村長

課題はゴム苗が品薄で、事業の中心となる苗木の植え付けが遅れていることです。枯死率を減らすため遅くとも 3 月の乾季開始前に移植を終えるよう PFP のニックさんに依頼しました。(ティバウ島はイオン環境財団、タブロは国土緑化推進機構の助成です)

## これからは販路拡大で支援を — 3 月で終了のナバルタビ後継者育成研修 —

約 2 年間の研修で、ジェネリンは日本でも売れる織ができるようになりましたが、シータは未だ卒業作品を見せてもらっていません。しかし、織の各工程は習得したと考えて、3 月末で後継者育成事業は一旦終了することにしました。

今後は NTP(ナバルタビ・プロダクション)による地元市場開拓とともに、私たちも日本での販路拡大に努め、中堅織手のアナベルとソーニャが畑仕事の傍らナバルタビ織を続けられるように、また、引き続き後継者を育てられるように支援していきたいと思います。

先日、夏に向けた帯地幅の織を各 1 巻ずつ、アナベルとソーニャにお願いしました。注文通りの幅でない場合は返品もありと、しっかりした品質管理を NTP に要請しました。

体調のよい時にとお願いしていた最高齢のグサベンさんの織を、11 月の訪問時、NTP マネージャーのスヌーリアから受け取りました。今のところこのベテラン・中堅・新人 5 名がアムグオでビラーンのナバルタビ織を繋げています。

約 1 年掛けて  
織りあげたグ  
サベンさんの  
織  
(50cm x 3m)



## 卒業生の挑戦 — 住民組織 BOSDA の 竹串共同出荷事業 —

共同店舗サリサリストア運営が軌道に乗ってきたボールルの住民組織 BOSDA から、次のステップとして、バーベキュー竹串共同出荷事業の収益増をはかる企画と支援要請が届きました。不安定な天日乾燥に代わる人工乾燥機と屋根付き共同作業場設置からなるものです。

組織運営の基盤作りになると期待される企画なので、会員の尽力で昨年未だに受領した企業寄附 10 万円を充当させていただきました。

BOSDA のリーダーの一人、農業専門家ボニファシオからは、地滑り被害地区 3ha のアグロフォレストリーモデル事業への支援要請も届いています。竹串事業の進捗状況、成果を確認したうえで対応したいと思っています。